

令和元年度事務事業評価シート(平成30年度実績)

◎基本情報

事務事業名	ハザードマップ作成・見直し事業		担当部署	企画総務部 危機管理局 危機管理課			
総合計画体系			根拠法令計画など	鳴門市地域防災計画			
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	平成	27年度	
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なる			終期	未定	
(小項目)	危機管理・防災						
施策	1	災害に負けないまちづくりの推進					
基本事業	1	危機管理・防災意識の高揚					

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 全市民						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	災害による被害を予測し、非常時に安全かつ的確な避難行動が行えるよう、住民一人ひとりの防災意識を高める。						
事業計画	30年度に何を計画していたか	作成したハザードマップを用いて、必要に応じて配布し、説明などを行い、防災の備えについて啓発を行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	単位
		ハザードマップの作成	ため池HM②印刷・配布 土砂・洪水HM見直し	新池川HMの改訂、高潮HMの作成に向けての調査研究	各HM(新池川・ため池・高潮)作成に向けての調査研究	各HM(新池川・ため池・高潮)作成に向けての調査研究	各HM(新池川・ため池・高潮)作成に向けての調査研究	

◎実施結果(DO)

事業実施内容	30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	ハザードマップについて、各窓口で配布をするともに、自治会等の地域住民の集まりや事業所職員を対象とした出前講座において、配布し、講座のテーマに応じて説明のなかで使用するなどした。また、新しいハザードマップに関する情報についても県の被害想定での作成などの情報収集を行った。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
指標名		29年度実績	30年度実績	元年度目標	2年度目標	3年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	ハザードマップの周知	○	○	○		
	2						
成果指標 対象にどのような効果があつたかを示す指標	ハザードマップの作成		ため池HM②印刷・配布 土砂・洪水HM見直し・印刷・配布	-	-	-	-
	目標達成率(実績/目標)			100.0	-	-	-
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	平成30年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	0	0
		補正予算額		0	0	0	0	0	0
		繰越予算額		0	0	0	0	0	0
		全体予算額		0	0	0	0	0	0
		決算額		0	0	0	0	0	0
	繰越額		0	0	0	0	0	0	
	人件費		正規職員(7,321千円/人)	臨時職員(2,125千円/人)	総人件費		総事業費		
			0.2	0.0	1,464		1,464		

事業費推移	年度	29年度決算	30年度決算	元年度	2年度	3年度
	事業費	9,512	0	61	-	-
	うち一般財源	7,512	0	61	-	-
	人件費	1,447	1,464	1,464	-	-
	総事業費	10,959	1,464	1,525	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった	住民に対して災害リスクの周知をはかるうえで、視覚的にリスクをとらえることができるマップの活用は有効であった。
	効率性	A:効率的だった	出前講座等の活用など、他課との業務連携を図り、効率的に事業を実施できた。
②成果に対する評価	指標名	ハザードマップの作成	平成30年度は新規のハザードマップ作成がない状況であったが、今後新しくハザードマップを作成を見据えた調査研究を実施した。
	目標	新池川HMの改訂、高瀬HMの作成に向けての調査研究	
	実績	-	
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	新規に作成を行うハザードマップはなかったものの、これまで作成をしたハザードマップの周知啓発の取り組みを行ったほか、今後新規に作成をする可能性を見据え、対象の確認を行うほか、他課、県関係部局とも協議を行った。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	徳島県から今年度新池川の浸水想定の見直し結果が発表される見込みであり、公表され次第、ハザードマップの改訂作業のための検討に着手する。また、防災重点ため池においては、選定基準の見直しがなされ、これまで以上に選定をされる見込みであるため、結果を基にハザードマップ化の検討を行う必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	R1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新池川の浸水想定の見直し結果の検証。</li> <li>・防災重点ため池のハザードマップ検討</li> </ul>			
	R2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討、検証結果に基づいて、防災重点ため池におけるハザードマップの作成等。</li> </ul>			